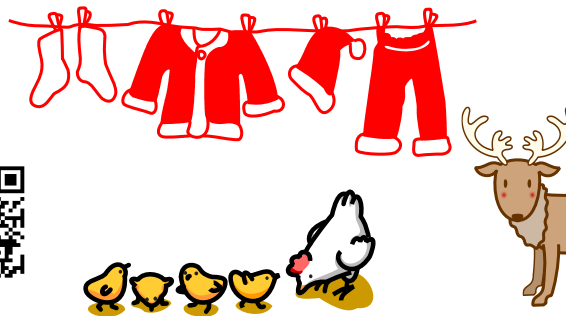
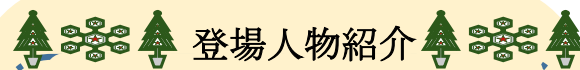


第2号
2018年12月20日
発行



絵 PN:トモ



登場人物紹介

山口春人【ハル兄】15歳

・高校1年生。彼女なし。
日菜のことがきになっている。
文化祭実行委員。

山口秋葉【アキ】13歳

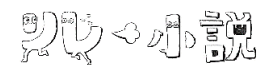
・春人の妹。彼氏アリ。
日常が充実している。

葉月日菜

・春人のクラスメイト。
文化祭実行委員。

田中信雪【ノブくん】

・春人のクラスメイト。秋葉の彼氏。



非リア充の日常



～前回までのあらすじ～

2学期のはじまり。
高1の春人(ハル)はリア充とはほど遠い
毎日を送っていた。
夏休みの間に彼女を作る予定だったのに、
遊んだのは男友達ばかり…。
妹の秋葉(アキ)には彼氏がいるというのに。



リレー小説とは

複数の人によって連携して作られた小説のこと。
毎回違う人が担当して書いています。

ハル兄、今日女の子と帰ってたよね。」
アキは家に帰ると、ただいまも言わずにそう言った。
何で知ってるんだよ。」
帰り道で見かけたんだよ。後ろにいたの、気づかなかった？」
全く気づかなかった。
結構可愛い子だったよね。ノブくんから名前も聞いたよ。
葉月日菜っていうんでしょ？」
ノブというのは俺と同じクラスの男子で、アキの彼氏だ。
ねえねえ、葉月さんとはどういう関係なの？」
アキが好奇心いっぱい目の目で身を乗り出す。
だだのクラスメイトだよ。同じ文化祭実行委員だから相談する
ことがいろいろあるんだ。」
えー、つまんない。ねえ、葉月さんのこと好きだったりするの？」
俺は返事に困った。確かに気になってはいるが、
好きだと言えるほど俺は彼女の
ことを知らない。
ラインは交換したが、未だに何も
送れていない。恋愛経験がないのだ。
何を話していいかわからない。
アキは俺の無言を肯定と受け取ったらしい。
アキがハル兄の非リア卒業に
協力してあげるよ。」
にんまりと笑ってそう言った。
何をするつもりだろう。

次号に続く…



作・絵
PN:トモ

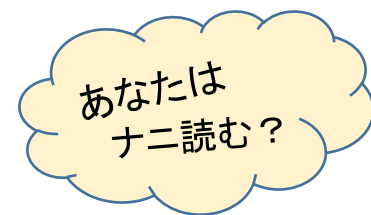




作 PN: くら

平成30年12月20日 第2号

YAサポーターズ
児童文学読書会アリス 発行
知多市立中央図書館



『冷たい校舎の時は止まる』

(上・中・下)

著者:
辻村 深月
出版社:
講談社



雪降るある日、8人の高校生がいつも通りに登校したはずの学校に閉じ込められ、その8人が分からなくなった記憶を取り戻したりする推理小説です。少しずつ謎が解けていき、とても続きが気になる話なので、ぜひ読んでみて下さい。 PN: マリー

『美雨13歳のしあわせレシピ』

著者:
しめの ゆき
出版社:
ポプラ社



ある日、帰宅した主人公を待ち受けていたのは、料理を作る父。なんと母は家出をしてしまっていた！ いったいこの家族はどうなるのか... 波乱万丈！ だけれども、おいしくて幸せな物語を読んでほっこりしませんか？ PN: ゴリラA

中高生が

一番借りている本 ランキング！

2018年上半期(4月～10月)に
ジュニアコーナーで、13才～18才のみなさんが
借りた本の貸出回数をランキングにしてみました！
あなたが読んだ本は入っているかな。

※知多市立中央図書館調べ

第1位
貸出回数
6回



5秒後に意外な結末
～パンドラの赤い箱～

編著者: 桃戸 ハル
出版社: 学研プラス

同数2位 貸出回数5回



5秒後に意外な結末
～ミノタウロスの青い迷宮～

編著者: 桃戸 ハル
出版社: 学研プラス



夢見る横顔

著者: 嘉成 晴香
出版社: PHP研究所



危ない誕生日
ブル-は知っている

原作者: 藤本 ひとみ
文: 住滝 良
出版社: 講談社

冬の花言葉

ポインセチア
＝聖なる願い

ちなみに
花の色では

<白>

・慕われる人
・あなたを祝福する

<赤>

・私の心は燃えている

※参考: (花と花ことは辞典、誕生花366の花言葉)

FROM アリス



児童文学を愛する読書会「アリス」会員のおススメ作品を様々なジャンルからご紹介します。ぜひご一読あれ！



「よくばり学園」

ファブリツィオ・シレイノ作
佐藤 まどかノ訳
中垣 ゆたかノ画
講談社 K973

主人公プリモは、心優しい男子、特徴は人を喜ばせること。父は大金持ち、ケチで欲張り。母はアンティークショップ経営者、一番嫌いなものは生き物。乳母は気立てがよいしっかり者。プリモは子供嫌いな両親と、心優しい乳母に育てられる。彼が9歳になり、よくばり学園に入学する。そこは、欲張りなビジネスマンを育てる学校で、自分勝手なことしか教えない。プリモと友人たちはそんな大人たちをやっつけるため、学校改革を始める。教師と生徒の戦いで、めちゃくちゃな毎日が繰り返される。

さて、学校はどうかわっていくのでしょうか。お楽しみに。

「ぼくのジユウな字」

春間 美幸ノ作
黒須 高嶺ノ絵
講談社 K913



ぼくの名前は、鷹野龍彦。なんで両親はこんなにむずかしい漢字の名前にしたのだろう。テストでぼくの名前を「タコ」と書いて、母をおこらせてしまった。書道教室に無理やりはいらされ、そこに待っていたのは、巨大な筆を背負ったおばあさん。先生はぼくのいいかげんな字を見てすごく腹を立てたのだ。書道教室を出てから、ぼくの書いた字が勝手に違う事を書き出してしまふ。自分では全く思ってもいないことを。友達や先生からも変な目で見られるようになってしまい、今すごく困っている。どんどんぼくの悩みがふえてゆく。読みやすく楽しいお話です。もうすでに読んだ人は、ほかのお友達にも紹介してね。

【原稿協力】

図書館協力団体

「児童文学読書会アリス」